



# 泗水小だより



泗水小学校  
学校だより No11  
文責 芹川博文  
6月30日(金)

学校教育目標「自ら考え なかまと高め合う 泗水小」

「みがけ心をいや清く  
きたえ体をいや強く」(校歌より)

「逆境大好き人間ですから、僕は。  
もちろん、最高の状況だと思っています。」  
(2022年サッカー・ワールドカップ予選リ  
ーグ、スペイン戦前の堂安 津の言葉)

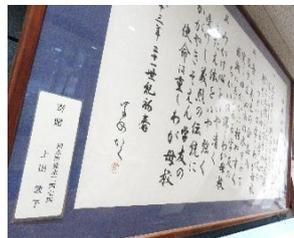
中体連が終わりました。中学校での教職経験が長かった私にとって、「中体連」という言葉は様々な記憶と思いを蘇らせます。

私自身、今でも残る後悔があります。当時、柔道部だった私は個人戦(体重別)に備えて、5kgほど減量をして臨みました。しかし、調整に失敗して当日は下痢を伴うフラフラ状態。抑え込まれてもがいている間、「なんでこんな終わり方なんだ!」という思いは、40年たった今でも忘れられません。あの時の、「こんな思いは二度としたくない」という悔しさ、自身への不甲斐なさは、今でも記憶に残っています。

子ども時代の経験は、その人の人生の土台となります。成功体験と同じくらい、悔しかった経験、思い通りにならなかった体験は、その後の「肥やし」となることでしょう。これからの予測困難な時代を生きる子どもたちにとって、逆境の中でも折れない強さやしなやかさ、どうにかする粘り強さとなる「問題解決能力」や「悪戦苦闘力」が大切になると考えます。

便利さや快適さばかりが強調されがちな今の時代ですが、コロナ禍の3年間も含めて、子どもたちは目に見えない大切な体験がないまま大人になっているのかもしれない。校歌の歌詞のように、心を磨き、体を鍛える場面を大切にしたいものです。

※先日、職員玄関に掲げられている校歌の寄贈者である上田敦子様が学校に見えられ、当時の事をお話していただきました。当時担任だった先生



(笠 英雄 先生)が、出征前、知人に頼んで作曲してもらい校歌が完成した話や、その後、歌い継がれていた歌詞の一部が原曲と違うことに気付かれ、正しい歌詞の校歌額(上の写真)を寄贈いただくまでの話を伺いました。

生き生きと話されるお姿に引き込まれ感銘を受けるとともに、様々な歴史と人々の思いを受け継いで今の泗水小があるという重みを、再認識したひと時でした。

## 泗水小 新たなステージへ ～パフォーマンス・フェスティバル～

【第1回 発表内容】

- バイオリン演奏(1人:「情熱大陸」演奏)
- 絵画披露(1人:自分で描いたアニメ紹介)
- キャッチボール(2人で近距離からの連続)
- バレーボール(6人でランニングパス)
- 剣道(3人で切り返し披露)

泗水小の新たな一歩を感じた瞬間でした。

仲間づくり委員会による第1回パフォーマンス・フェスティバルが開催され上の5組が発表しました。音楽、絵画、スポーツ、武道。ジャンルを超えて「野外ステージ」で発表し、その発表を、学年を超えて大勢の子どもたちが拍手大喝采で応援しました。

初の試みで未知数の部分もありましたが、やってみると泗水小のパワーと優しさ、そして個性輝く時間となりました。

お互いの個性や頑張り認め合い、「明日が楽しみ」と思える学校を目指します。



## 花も野菜もぐんぐん成長 ～地域の皆様の善意を受けて～

「今年のミニトマトは鈴なりですね」

今年の苗は、農業高校に勤務されている方からいただいたものです。野菜は他にもナスやピーマン、ジャガイモも。

一方花壇は、ボランティアの方が朝から手入れをしてくださったり、子どもたちや職員が水をかけたりしてお世話をしています。花と野菜の泗水小です。

